

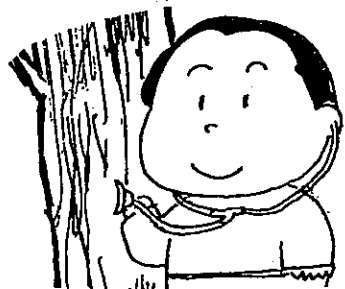
木の鼓動

「木は生きています」ということは誰もが当たり前に口にすることです。しかし、そのことを確かめる方法となると…。そのようなとき、木の幹に聴診器をあて、目を閉じ、聴診器を通して聞こえてくるわずかな音に、耳を傾けてみましょう。

- [ねらい] 木の中から聞こえてくる音を聴き、木が活着していることを実感する。
 [場所] ふれあいの村敷地内の散策路、雑木林など。
 [時間] 30分程度
 [人数] 小グループ単位での活動

- (静かな環境の中で活動に集中できるような雰囲気が作れるように)
 [活動について] ○活動にあたり聴診器を用意する。(貸出用聴診器あります)
 ○幹回りが30cm以上で木の樹皮の凹凸が少ない木を選ぶ。
 ○聴診器を木の幹にあてる。どの部分に当ててもよいが、木の鼓動はとて小さい低い音なので、数回、木につけたり離したりを繰り返す。木につけたときに聞こえ、離れたときに聞こえなくなる音が「木の鼓動」です。

- 一本の木で聞こえたら他の木でも試してみましょう。
 *「木の鼓動」の正体は木が水を吸い上げる音、木が風に揺れている振動、地面の振動など自然の中の様々な音が木を通して伝わってくる音といわれています。



サイレントウォーク

森の中を歩くと行っても、言葉を一言も話さずに歩くだけでも、全く違った森の表情を発見することができます。2人組で森を歩き、それぞれが森の中での発見したことや驚いたことを言葉ではなく、身振りや手のサインを使いながら分かち合ひましょう

- [ねらい] 自然を注意深く感じ、感じたことを言葉を使わずに相手に伝える
 [場所] ふれあいの村散策路、雑木林のなかで一定の範囲を設け
 [時間] 60分程度
 [人数] 小グループ単位での活動

- [活動について] ○活動を行うにあたり共通のサイン、ジェスチャーを決める。
 *親指→虫に関係ある物 人差し指→鳥に関係ある物 小指→植物に関係ある物 薬指→その他の発見 などを参考に
 ○活動を実施する範囲(スタート・ゴール)を決める
 ○指定の範囲内はいっさい話しをしないこと、何か発見をしたらサインを使って相手に伝えること、相手と同じように音や匂いを感じてみることを確認の後、範囲での活動を開始する。

- [活動の応用]
 ○活動を終了後は、同じ場所・道を言葉を使いながらたどり、お互いの伝えたかったことを確認してみるのも面白いでしょう。



マイクロハイク

目の前に広がる森だけが自然の全てではありません。普段見過ごしてしまうような足元の草むらにも自然は広がっています。そんな草むらに虫めがねを持って近づき、マイクロの世界に広がる自然をのぞいてみます。

- [ねらい] 自然の見方や感じ方を変える中で、新たな自然との接し方を体験する
 [場所] ふれあいの村敷地の草むら、空き地など
 [時間] 30分程度
 [人数] 何人でも可能
 [活動について] ○虫めがねと1m程度の細い糸を用意する。(貸出用虫めがねあります)
 ○草むらの片隅、空き地の一角、その他適当な場所を選び、その場所に糸を置きます。



- 地面に顔を近づけたり、腹ばいになりながら、虫めがねで糸の端をのぞき込み、糸をたどって行きます。
 ○糸をいろいろなところに置いて面白いコースを発見したり、お互いのコースを交換しながら挑戦してみましょう。

木の詩

ふれあいの村に広がる森の中から1本の木を選び、その木にグループのみんなで注目してみます。様々な角度からその木を観察し、グループの共同作業で「グループで選んだ木」の詩を作ってみましょう。

- [ねらい] 一本の木を様々な角度からとらえるなかで、それまで気づかなかった木の一面を発見する。
 [場所] ふれあいの村散策路、雑木林など
 [時間] 60分程度
 [人数] 小グループ単位での活動
- [活動について] ○グループごとに1本の木を決めます。
 ○1人1人が思い思い、その木の見える位置を選び、その木をしばらく眺めます。
 ○その木について感じたことを1人が2つの単語で表してみます。
 ○2つの単語ができたなら、グループ全員が集まり、そこに集まった全ての単語を盛り込んだ簡単な詩を作ります。

*選んだ木をどの場所から眺めるか、選んだ木のどの部分を眺めるかによって様々な木の様子が見えてきます。

- [活動の応用]
 ○それぞれのグループが作った詩をそれぞれの木の下で朗読し、発表してみましょう。

